

高等教育の倫理（開発）を考える

関沢 和泉（東日本国際大学 高等教育研究開発センター 教授）

講師略歴

専門は、自由学芸と哲学の歴史をバックグラウンドとし、所属機関での IR の立ち上げと ICE モデルを利用した教育プログラム単位での内部質保証体制の確立とその改善に取り組む。現在、日本高等教育開発協会において、研究費助成（研究代表者 中井俊樹）を受け、高等教育機関における教育場面での倫理開発について研究を進めている。

プログラム概要

研究倫理研修は制度に組み込まれつつありますが、教育場面での倫理的課題については取組みが遅れています。

ここで教育場面での倫理とは以下のことです。既知の状況では、多くの場合、目的等を考慮しつつ前例に基づいた判断がなされることが多いでしょうが、未知の／例外的状況に直面した際は、価値（観）の領域に踏み込んだ判断が求められます。例えば生成系 AI (LLM) への対応です（注 今回の主題ではありません）。

生成系 AI は世界中の（高等）教育機関が直面している問ですが、未知の／例外的状況は個別的なものであり、それぞれの機関の目的や専門領域等によって、課題への向き合い方が変わるであろうものです。

今回は、各機関やプログラム運営単位において、教育に関する価値観のすりあわせプロセスを設定する際に、どのような研修が設定できるのか、先行事例共有の講義とディスカッション・グループワークを通じて共に考えます。所属機関にすでに教育場面での倫理綱領に類するものがある場合はお持ちください。

準備物・事前課題

所属大学に教育の倫理に関する規程や綱領、ガイドラインがあれば、それをお持ちください（持ち出すことが難しい場合は内容をご確認のうえご参加ください）。

時間が限られるため、事前に導入となる動画を公開します。視聴してご参加ください。

主な受講対象者

教育の倫理について考える必要がある／考えてみたい教職員の方。

とくに所属機関でそうした方針を定めたり改訂したりすることにかかわることがある方向きの要素が多くなりますが、それ以外の方も歓迎します。

※ ささまざまな場で取り上げられることが多い研究倫理については今回は扱いません。

※ どの機関でもそのまま使える解決策を示すというよりも、解決策を見つけるための手法を先行事例等から考えてみる場という方向性です。

到達目標

1. 高等教育における教育の倫理がどのような点において課題とされてきたか、ポイントを列挙することができる。
2. 課題解決のためにどのような研修が提案されているかを列挙することができる。
3. 所属機関・組織において、それらの課題意識に対応する問題がどのように扱われているか、それぞれの立場から分析することができる。
4. 所属機関・組織において、教育の倫理に関する課題を協働して解決していくための研修の概要を提案することができる。